

あなたと博物館

松本市立博物館ニュース No.173 2011.3.1



フクジュソウ

春の訪れを告げる花々



アズマイチゲ



春の訪れとともに、里山では野の花が咲き始めます。アルプス公園ではマレットゴルフコースの途中などに植えられたフクジュソウがプレーする人たちの目を楽しませてくれます。

また、公園の奥では野生のアズマイチゲが遊歩道沿いなどで咲いています。他にも早春のアルプス公園にはいろいろな「春」があります。皆さんもアルプス公園に「春」を見つけに来ませんか。

もくじ

誌上博物館 ◇ 博物館と市民協働

— 市民力と博物館力による新たな博物館創りの試み — … 2-3

ガイドコーナーはてんぼく …………… 4

博物館と市民協働

— 市民力と博物館力による新たな博物館創りの試み —

はじめに — 博物館の協働事業

近年、よく市民協働といわれます。松本市が進める市民協働を簡単に整理すると(1)市民と行政が対等の立場で、(2)共通の目的や課題をもって、(3)それぞれの資源や能力を持ち寄り、(4)適切な役割分担をし、(5)連携・協力して取り組むこと、の5項目になります。今、博物館で協働が必要かを考えると、①博物館力の限界、②市民力の増大、③博物館をとりまく環境の変化、などがあげられます。協働の原理原則「一緒に考え、一緒に汗水を流して働く」ということに視点をおくと、博物館事業のうちいくつかの事業が思い浮かびます。今回はそれらのうち、**1**学都松本・博物館「勸館楽学」対談、**2**市民学芸員養成講座、**3**児童用まる博ガイドブック『もっと知りたい まつもっと一行って見る松本』の編集・刊行、の3事業について紹介してみます。

1 「勸館楽学」対談

博物館では、館ニュース170号で紹介したように(※1) 去年の4月から月1回のペースで、学都松本を創造する一助として「学都松本・博物館「勸館楽学」対談」を始めました。現在までに、下記のような博物館にかかわりのあるテーマにこだわりながら9回開催しています。



第9回 参加者からの博物館への提言



第9回「マチは生きている・中心市街地の今昔」

回	テーマ
1	博物館は都市に似ているー博物館とまちづくり
2	暮らしに根ざした戸戸と湧水ーまるごと博物館に寄せて
3	子どもに伝えたい昔の暮らしー博物館で世代間交流
4	里山に遊ぶ、里山で遊ぶーアルプス公園での活動から
5	小学校の郷土資料室は今ーノスタルジーと、新鮮さと
6	松本平は太古、一面湖水だったー現在も伝わる湖水伝説
7	明治の授業から学ぶもの
8	とことん使い込む地域文化ー奈川のソバ栽培再現映像を見て、考える
9	マチは生きている・中心市街地の今昔ー中町と六九を中心に

当初、対談に不慣れであった職員も回を重ねるごとによりやく慣れてきました。内容によって会場からの意見の多寡はありますが、対談者、そして参加者からの意見や質問に詰まることもあり、勉強不足を感じます。しかし、学芸員の一方的な情報伝達では得られない市民学習への後押し、またその逆もあり新たな博物館事業の第一歩を踏み出せました。前回、1月29日(土)の第9回では参加者からマチの成り立ちについて発言があり、またほかの方から「松本の将来が少しでもわかるような展示を」との提言もありました。痛いところを突かれた?と思います。市立博物館の老朽化・狭隘化もあり展示スペースが限られていて、現在、近現代の展示が思うに任せていません。近年、公立博物館では近現代の展示スペースが十分に確保され、「〇〇市の未来は?」というようなコーナーを設ける館が増えてきています。

市民の提言があつて一部分ですが展示が変わる?! 時間はかかるかもしれませんが、一緒に新しい展示を創ってゆきたいと考えます。

2 市民学芸員養成講座

平成12年に策定した松本まると博物館構想の「市民と博物館の連携」に『市民学芸員』制度等の人的資源確保の検討」とあります。何年も検討してきましたが埒が明きませんので、市立博物館では平成18年度から市民学芸員養成講座を開講しました。今年度で5期目を迎え、修了者は計55人、今年度の受講者は7人です。修了者の有志は市立博物館、考古博物館、歴史の里などで解説、体験学習の講師などを務めています。ただ、気をつけなければいけないのは、市民学芸員の役割は、博物館職員のバックアップではなく多彩な事業を適切な役割分担でこなすことです。

博物館の学習支援活動はプロフェッショナルーモノシリーの養成ではなく、偉大なるアマチュアリズムー自己教育力を育てるーの形成といわれています(※2)。去年の11月20日には「刀剣の美」について学習しました。今年に入りある受講者からは刀剣などの美術工芸品に興味を持ち、「刀剣の展示方法について学び、できれば展示を手伝いたいがどうすればよいか」と質問がありました。また、先日も2月8日を中心に受講者と職員がコトヨウカ行事の調査を行いました。寒い中、皆さんは行事を見学し、地元の方々から熱心に聞き取り調査を行うなど、成果があったようです。近日中に受講者のレポートが提出されます。先にふれた「勸館楽学」対談に関連し、



市民学芸員養成講座「刀剣の美」



市民学芸員養成講座「コトヨウカ調査」(蔵所)

この号が出てしまいましたが、2月27日(日)には「市民学芸員の活動から一考古博物館での実践と可能性一」について市民学芸員と職員が対談しました。また、3月5日(土)には「コトヨウカ行事について語ろう」というテーマで提出されたレポートをもとに今年度の受講者と職員が対談します。

3 『もっと知りたい まつもっと』

― 行って見る松本』の作成

市立博物館では学習支援活動の一環として調査報告書、紀要、特別展図録などを作成、頒布しています。ここ何年かでは『鯉のきた道』『七夕と人形』『松本まるごと博物館ガイドブック』などが好評のようです。しかし、これらは成人向けで、児童・生徒用の普及書は皆無に等しい状況です。その一方、博物館としては展示見学、体験学習など博物館の資料や施設をより利用して欲しいと考えています。そこで事業化したのが児童用まるごと博物館ガイドブックの作成です。

これは、**12**のような博物館の呼びかけではなく、「楽知ん見友会」という市民グループから提言があり、県の元気づくり支援金を得て実施することになりました。主婦や市民学芸員、教員、歴史研究家、友の会会員などが会員で、全員ヤル気に満ちています。

どちらかといえば、私たち職員が押され気味でしょうか。現在、松本市の小学生は3・4年生が『わたしたちの松本市』、6年生が『わたしたちの松本城』を学習していますが、5年生は何もありません。そこで、5年生用に児童用まるごと博物館ガイドブックを作成し、配布することにしました。

現在、作成に向けて週に一度全員の学習会を開き、原稿や写真の検討を行っています。ここでの役割分担は、楽知ん見友会が調査・原稿執筆、市立博物館が原稿執筆補助・編集となっています。教科書の体裁も年々変わり、児童が興味をいだきやすいようなレイアウトも必要との助言も会員の教員からありました。全体計画は10か年になっていますが、今後の博物館活動を見据えた場合、将来の松本をになう児童たちに生まれ育った「松本まるごと博物館」を知ってもらうことは大切なことだと思います。ちなみに第1集は『水と暮らし―泉こんこん・水の都ものがたり』です。



児童用まる博ガイドブックの編集会議

おわりに

博物館の市民協働事業は、ある意味、まだ緒に着いたばかりです。今回紹介した3事業も、博物館と市民が適切な役割分担ができているのかどうかはまだ疑問が残ります。また、今回は紹介できませんでしたが、友の会活動も市民協働の一つです。古文書部会は前年度に引き続き館所蔵古文書の解読作業を進め、間もなく『古文書史料集第2集』が刊行になります。刀剣部会は定期的に館所蔵刀剣類のメンテナンスを行い、市民学芸員養成講座の講師も務めています。しかし、このような事業を行うことで、市民の自己教育力向上に博物館が寄与でき、アマチュアリズム形成のなかで何よりも博物館が変わることができるのです。

その延長線上に、市民と博物館の協働作品―新たな基幹博物館―が、きっと、創られるのではないのでしょうか。

(課長補佐・学芸員 / 窪田雅之)

[註] (※1) 拙稿「学都松本―変わらない博物館、変わる博物館」

(『あなたと博物館』170) 平成22年

(※2) 伊藤寿朗『市民のなかの博物館』吉川弘文館 平成5年

松本市立博物館から

☎0263-32-0133

新収蔵資料展

会 期 3月12日(土)～22日(火) ※会期中無休
会 場 市立博物館2階展示室
観覧料 松本城共通券(大人600円/小・中学生300円)

企画展「千紫万紅—松本の押絵雛—」

会 期 3月26日(土)～4月10日(日) ※会期中無休
会 場 市立博物館2階展示室
観覧料 松本城共通券(大人600円/小・中学生300円)

年中行事シリーズ1

月遅れのひな祭りに併せ、来館者に無料甘酒サービスをおこないます。

日 時 4月3日(日) 午前10時から
(甘酒が無くなり次第終了)
会 場 市立博物館1階エントランス

窪田空穂記念館から

☎0263-48-3440

松本の子どもの短歌・2010作品展

会 期 3月19日(土)～4月17日(日)
会 場 窪田空穂記念館会議室
観覧料 作品展のみは無料

春休み窪田空穂記念館囲碁教室

会 期 3月29日(火)～3月31日(木) 午前10時～正午
会 場 窪田空穂記念館(生家)
対 象 小中学生
参加費 無料(定員あり)
指 導 囲碁普及ボランティアグループ
申 込 Tel.090-5808-0768 峯岸まで

旧三松屋蔵座敷がオープン!

2月11日(金)に旧三松屋蔵座敷がオープンしました。開智学校校舎を設計・施工した立石清重の手によるこの蔵座敷は、三原家第7代当主三原彰氏から市が寄附を受け、はかり資料館隣接地に移転・整備しました。11日



から13日までの3日間は無料開館し、1,300人以上の皆さんにご覧いただきました。展示は常設展示のほか、開館企画展として「中町・民芸・丸山太郎」を3月6日(日)まで開催し、19日(土)からは「松本の春、見つけた!」を開催します。どうぞご覧ください。

歴史の里から

☎0263-47-4515

高機で裂き織り体験

日 時 3月5日(土)、4月16日(土)
午前10時～正午、午後1時～3時
定 員 午前、午後とも各6名
体験料 1,000円(18cm×22cmの布を織ります)
持ち物 裂き織りにしてみたい布(お持ちでしたら)
申 込 3日前までに歴史の里へ(先着順)

子ども裂き織り一日体験

日 時 4月29日(金・祝)
午前9時30分～午後3時
定 員 親子6組(小1～中3とその保護者)
※親子一緒に参加できる方に限ります。
体験料 親子で1,000円
(18cm×22cmくらいの布を、各自1枚ずつ織ります)
持ち物 昼食、裂き織りにしてみたい布(お持ちでしたら)
申 込 3日前までに歴史の里へ(先着順)

糸ひき体験講座「繭から生糸をひいてみませんか?」

日 時 4月20日(水)、21日(木)
※2日ともご参加ください。
午後1時～4時
会 場 旧昭和興業製糸場(歴史の里内)
定 員 4名
体験料 2日で1,000円
持ち物 エプロン
申 込 歴史の里へ(先着順)

時計博物館から

☎0263-36-0969

春休みネジ巻き見学会

普段は見ることができない開館前に時計技師が行っている古時計のネジ巻きや時刻合わせの様子を、解説をまじえながら公開します。

会 期 3月19日(土)～3月21日(月・祝)
各日午前9時～9時45分
会 場 時計博物館常設展示室
観覧料 常設展観覧料が必要
(大人300円、小・中学生150円)
問合せ 時計博物館へ
その他 事前申込は不要です

企画展「時の標本展—Specimen of time— ～砂時計が刻む30種の時～」

砂時計作家として活躍している玉田裕美氏(長野県佐久穂町出身)の作品展を開催します。昨年の若手作家作品展の審査員特別賞を受賞した素晴らしい作品を展示します。

会 期 3月19日(土)～3月27日(日)
※22日(火)は休館日
会 場 松本市時計博物館 3階企画展示室
観覧料 企画展は無料(常設展は有料)

あとがき

アルプス公園も春の気配が感じられるようになってきました。今年は夜桜のライトアップが計画されています。詳細はアルプス公園の公式ホームページにてご確認ください。(M.O) <http://toybox-net.jp/alpspark/>

あなたと博物館 No.173

発行年月日/平成23年3月1日 編集・発行/松本市立博物館
〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133 URL:<http://www.matsu-haku.com>
e-mail: mcmuse@city.matsumoto.nagano.jp 印刷 川越印刷株式会社